

## 第4回 洲本市公共施設等再編整備検討委員会 議事録

1 日 時：令和2年8月17日（月） 13時30分～15時40分

2 場 所：市役所本庁舎4階災害対策室（準WEB会議）

3 出席者：委員12名中、11名出席

（オンライン）

遠藤尚秀委員長、小川宏樹副委員長、佐藤 亨委員、中村尚義委員  
徳重正恵委員

（会場）

中野かおり委員、丸山 正委員、安倍敏明委員、佐竹淳司委員、  
豊島あゆみ委員、山口雄治委員

（欠席）

安家一秀委員

（市 出席者）

浜辺副市長、上崎副市長、財務部5名

4 傍聴者：なし

5 内 容：

- |  |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"><li>1. 開会</li><li>2. 洲本市公共施設等マネジメント委員会委員長（浜辺副市長）挨拶</li><li>3. 洲本市公共施設等再編整備検討委員会委員長 挨拶</li><li>4. 協議事項<br/>各個別施設の取扱いについて</li><li>5. その他</li><li>6. 閉会</li></ol> |
|--|

(1) 洲本市公共施設等マネジメント委員会委員長（浜辺副市長）挨拶

暑い中ではあるが、ご協議をお願いしたい。今回で検討委員会の開催が4回目となる。個々の施設について、ご意見を頂くのは今日で最後となる。忌憚のないご意見を頂戴したい。

(2) 洲本市公共施設等再編整備検討委員会委員長 挨拶

前回の委員会では、個別施設計画の全体像を確認した上で、中分類ごとのそれぞれの

施設について、順番にご議論いただいた。本日はその続きで、前回資料の 21 ページからとなる。各個別施設に関する協議は、本日が最後となる。どうぞよろしくお願いしたい。

### (3) 協議事項

各個別施設の取扱いについて

事務局から資料の説明

### (4) 協議内容

#### ○高齢福祉施設、保健施設、その他社会福祉施設

委員： 五色健康福祉総合センター (No.65) の老朽化比率が 7.6%なのに、大規模改修方針となっているのは何故か。工事内容も知りたい。

事務局： 特別会計にあった施設だが、平成 30 年度から公営企業会計（一部適用）に切り替わり、固定資産台帳も切り替わった。そのため平成 30 年度以降の老朽化比率となっている。大規模改修については、建物本体や設備について適切に実施していきたい。

#### ○庁舎等

副委員長： 現在の取組方針の内容で良いと思う。

委員長： 健康福祉館 (No.68) の大規模修繕 3 億円の内容は何か。

事務局： 空調設備（一番金額が大きい）、エレベーター、消防設備＋監視システム、ポンプ等の改修と、屋上のコーキングや外壁改修など。

委員： 上灘出張所 (No.71) について、上灘分団相川機具庫機能と相川集会所機能を当施設に移転となっている。ついては現相川集会所 (No.13) は閉鎖ということか。

ということは元の施設の維持管理経費が削減され、移転先の出張所には、そういった機能を置く余裕があり、利用率を上げながら利活用するというイメージでよいか。

事務局： お見込みのとおり。相川集会所は 8 ページの 13 番にあり、廃止後に集約化を図っていく方針。

#### ○消防施設

委員： 分団施設は昔から残っているものが多く、危険な建物もある。安全性の観点から早急に除却等の対応をしてもらった方がいい。

委員長： P26、27 を見てみると、老朽化比率 100%の建物が少なからずある。地元町内会に移管するにしても、そのままでなくメンテナンスした上で、地域住民が安心安全に活用できる状態にしてから、譲与されるものとする。

委員： 集約化を進めようとしている地域もあるが、No.102～104 の納鮎屋分団施設につ

いては、全て維持管理・修繕の方針となっている。No.102 と 103 の器具庫は老朽化が進んでいるが、集約化を検討しないのは、他と何が違うのか。

事務局： 建物面積も小さく、地元消防団にとってもまだ必要だろうということで、集約化ではなく、現状維持という方針となっている。

委員： 地元町内会に移管する場合の対策費用が0円となっているのは何故か。メンテナンス費用がいるのでは。売却も想定しているからか。

事務局： 対策費用には、大規模改修や建替え等の費用を計上している。地域によっては、地元譲与の際に費用が発生することもあると思う。地元との意見調整が前提となるので、現時点では計上できていない。

委員： 土地を含め民間への売却となれば、対策費用も不要となり、逆に市の歳入にもなる。良い方法を考えて欲しい。

委員長： どの自治体も消防団は、地域が支えている。若い人が少なくなると、担い手不足が問題となる。難しいと思うが、団員確保の取組みとともに、さらなる行政と地域との協力が重要になると思う。

委員： 詰所はどのような形で利用されているのか。

事務局： 詰所は、消防団が訓練等で使う施設となる。必要な機材を置いていたり、団員が集まって活動している。倉庫として使っているところもあるが、団によってそれぞれ。

委員： 町内会に移管した場合に、消防機能は町内会に委ねられるのか。または今までの機能性は発揮できるのか。

浜辺副市長： 消防団の施設については、連合町内会を一定のエリアでくくった地域があり、その地域ごとに、消防コミュニティ施設という形で詰所を持っている。当該コミュニティ施設は従来通り維持していく。移管調整予定の建物については、詰所機能が無いか、または極めて低い状況となっている。消防力の根幹となる詰所については、従来どおり市が管理していく。

委員： 洲本市では、班を連合体に集約して、コミュニティ消防センターを建てたため、旧の詰所等は不要になった。しかし、所有者とか解体費用を誰が持つのかでもめてしまい、そのままになっているのが現状。それが今、危険建物になっている。金に余裕があったなら、コミュニティ消防センターを建設したときに、解体して土地を地元または市に戻すといった対応ができていたいと思う。土地を早く利用したい地域では、自分で解体したりしている。

委員： 詰所等は、町内の消防団が使用している建物で、消防活動や訓練に使われている。建物を今回、集約や廃止したとしても、消防組織は今までどおり残り、詰所の場所を集約していくという理解でよいか。

事務局： お見込みのとおり。

委員： 旧内町分団 1.2 班詰所 (No.74) はどこにあるのか。

事務局： 消防団内町分団地域拠点施設 (No.76) の道向かいにある。

委員： 現在、消防倉庫に使っているのか。

事務局： 都市整備部の道路関係の機材も一部置いている。

委員： 7か所の町内会が、ここをエコステーションとして使っているが、ここが倉庫として使われている印象がない。老朽化比率が100%なのに、存続方針となっている。  
事務局： エコステーションとして使用されていることも考慮している。

○その他行政系施設、市営住宅（上堺定住促進住宅）

委員： 倉庫が多いが、そのまま維持修繕となっている。本当に有効活用されているかどうか判断できない。どこか1か所に集約すれば、維持管理費も節約できるのではないか。

事務局： 空きスペースがあれば集約化できるが、現状、新たな施設を造るのは困難。倉庫については、大きく手を入れる状況ではないので、当面は現状維持したい。

委員： 大規模災害が頻発している中で、熊本のような河川氾濫が起きて流されるリスクがある。重要性が高いものと低いもの見極めができているのか。災害リスクが低い場所に建設して、そこに集約する必要もあるのでは。

事務局： 危険性のない施設への集約化が望ましいとの認識はあるが、現時点では移転先がないため、現状維持となっている。

委員： 旧五色情報センター（No.125）は、兵庫県社会福祉事業団への無償貸与を継続となっているが、なぜ無償なのか。

事務局： 「あゆみの部屋」といって、就労支援B型事業を実施しており、障害者雇用の一翼を担っているため、無償貸与となっている。受益者は洲本市民。小さな維持修繕は事業団が行っている。災害で大きく壊れたときは市が対応している。

委員： 内膳水防倉庫（No.126）に関して、災害時に、高齢者の自宅まで市が土のうを運ぶ仕組みがあるのか。

事務局： 現在、台風が来る前などに、消防団や市が土のうを準備して、防災公園や五色庁舎で配布をしているが、高齢者宅まで運搬するところまでは手が回っていない状況。

委員： 物部倉庫（No.116）と安乎水防倉庫（No.127）についてだが、すでに老朽化比率が100%に達しているが、維持・管理修繕の方針でいいのだろうか。

五色庁舎万倉庫（No.121）と大日資材倉庫（No.122）のように、もうすぐ100%に届く施設がある。こういった施設の対応方針はこれでいいのか。

事務局： これらの施設は主に、倉庫や書庫に使われており、直ちに生命、財産に危険・支障を及ぼす状況ではないので、現状維持していきたい。ただし、施設の状況を見ながら適切に対応していきたい。

委員： 重要なのは、個別施設計画の運用となる。計画を立てると、10年間この計画で動くことになるが、途中で老朽化比率が100%に達したり、状況が変わって大規模改修することもある。計画の運用についても考えてもらいたい。

委員： 情報交流センター（ポートターミナルビル）（No.112）に、みくまホールがあったと思うが、市民が忘れかけていないか。市民交流センターのビバホールが廃止されるため、みくまホールを使えないか。

事務局： みくまホールはすでに廃止されており、ホール機能はない。

浜辺副市長： 1Fと2Fの半分が淡路開発事業団、2Fの半分と3Fが市の所有で、区分所有

している。2FにはCATVの放送設備があって、淡路島テレビジョンが使っている。3Fについては、情報交流センターの利用率が低かったので、くにうみ協会に有償で貸し出すタイミングで廃止をし、同時に利用率が低かったみくまホールも廃止した。維持費もかさんでいた。

委員： ある程度の利用を見越して、施設を新設すると思うが、どうして利用者が少なくて廃止になったのか。

浜辺副市長： 結果的に目論見違いとなった。駐車場の制約もあり、小規模ホールだったため、町内会の総会等では使われていたが、それ以外では、利用が少なかった。過去の行政改革の取組みの中で対象に上がり、公共施設の役割を終えて、貸し出そうということになった。今は、部分的に倉庫代わりに使っている。

#### ○公園

委員： 柏原山(No.133)のポンプは何に使われているのか。また国立公園内の施設は、市が管理すべきものなのか。

浜辺副市長： 昔、柏原山に牧場があり、水をくみ上げるために使っていた。現在は使っておらず、建物が危険な状態なので除却するものである。

国は公園のエリアを指定するだけなので、市が全て管理している。

委員： 五色県民サンビーチ(No.138)の年間の利用者数と維持管理費用が知りたい。

事務局： 手元に資料がないため、後日お知らせする。

委員： 質問の趣旨は、老朽化比率が50%に達しておらず、維持管理費もあまり要らないのなら、交流人口が見込める限り、廃止しなくてもよいのではということ。

委員： 三熊山公園(No.136)は、洲本市の観光名所のキーになる場所だが、来島者から施設が足りずもったいないという声を聞く。ふるさと納税を活用するなどして、もっとここに資本投下し、魅力ある場所として整備してはどうか。施設に濃淡を付けていいと思う。

事務局： ふるさと納税を活用し、周辺から石垣が見えるように木を伐採し、城をしっかりPRする取り組みもしている。ふるさと納税の状況を見つつ、ご意見のあった点についても考えていきたい。

委員： 集客対応も考えるということでしょうか。

浜辺副市長： 三熊山公園は、国立公園、史跡、風致など、色々な規制がかかっている。そういう規制がある中で、色々変えて行きたいという思いはある。近年はトイレを建て替えてきた。史跡に関する委員もおられるので、理解を得ながら造って行こうと考えている。

本市もたくさんの方に来てもらって、魅力を感じて頂くための取組を進めていく考えである。

委員： 姫路城に、バーコードにスマホをかざすと、昔の風景が見える場所がある。三熊山公園や史跡には洲本の歴史を感じられるところが多いので、交流人口を増やす仕組みを取り入れて、建物改修だけではなく、洲本市が全体としてつながっていくようなものを進めて欲しい。

## ○供給処理施設

特に意見なし

## ○その他

委員： 旧高田屋嘉兵衛翁記念館（No.174）の方針内容はどうか。

事務局： 文化史料館のような建物だったが、その用途を近くの高田屋嘉兵衛公園内の高田屋顕彰館・歴史文化史料館（No.33）に移し、機能を1本化した。建物だけが残ったので、五色町商工会（顕彰会）に建物を貸しており、維持管理はそちらでしてもらっている。

委員： タイムアフタータイム（No.177）の現状は。

上崎副市長： 貸し付けていた相手方が退去したため、現状空き家となっている。この施設は引き続き、貸付けをしていきたい。この施設は、旧アルファビア、図書館、アルチザンスクエアを含めた、市民広場一帯で事業を展開するために取得したもの。その後、レストランとして利用していたが、旧アルファビア本体を先に動かしたという中で、今、事業を進めようとしている。

建築確認申請が、2施設一緒に取られており、可分・不可分の関係で、先に旧アルファビアを稼働させてから、次にタイムを稼働させたいと考えている。

委員： アルファビアの利用はどのように考えているのか。

上崎副市長： 現在、基本設計をしている。特に子育て世帯の市民や観光客が利用できるような施設にリニューアルしていこうと考えている。ホールの設置も考えている。関係機関と協議・調整を行っている。

委員： 一帯は、市にとって一番目玉のレンガ群だと思う。もう少し観光的な、収益が上がる、生産性のある利用の仕方を考えてもいいのでは。

上崎副市長： 観光利用目的をベースに考えてきた。ただ、観光に特化するのではなく、まず地元の方に何度も足を運んでもらい、次に観光に結び付けたいという思いの中で、基本設計を考えてきたところ。

委員長： 公設市場（No.167）の3F以上は市営住宅だが、これは引き続き使うのか。

事務局： 公設市場と市営住宅を廃止、除却する方針。店子については、新しい建物ができた場合に、入ってもらう方向で検討している。

## ○医療施設

委員長： コロナ禍の中で、どの医療機関も厳しい経営を迫られているが、特に五色診療所（No.178）は、大きな費用をかけて、今後も維持していくものと考えてよいか。

事務局： 診療所は地域にとって必要な施設なので、しっかり対応していきたいと考えている。

委員： 五色診療所（No.178）の対策費用2億5千万円の主な内容は何か。

事務局： 設備の改修や建物の長寿命化に対応していきたい。

委員： 医療器材も含まれるのか。

事務局： 含まれていない。

委員長： 五色診療所（No.178）の病床数はいくらか。

事務局： 19床だが、医師が1人しかいないので、現在、入院は休止中。

委員長： 公立の病院や診療所は、コロナ禍で大変厳しい状況だと思うが、規模が小さいと、規模の原理が働かず益々厳しい状況となる中で、安心安全のために、民間の病院との役割分担も含めて、引き続きがんばっていくものと捉えている。

医師住宅の保留方針はどういうことか。

事務局： アスパ五色を活動拠点にしているFC淡路島というサッカーチームがある。そこから医師住宅を活用したいという申し出を受けており、現在調整中。

#### ○下水道施設（神陽住宅団地コミュニティ・プラント）

特になし

委員長： 以上、各個別施設について、貴重なご意見やご質問をいただいた。会議の中で、各委員からいただいた意見について、事務局で整理・検討してもらい、事務局との調整については、私に一任いただくということでよいか。

委員： 異議なし

委員長： これまで、公共施設等再編整備に関する大きな方針（既存施設の有効活用・機能重複施設の統廃合・施設の複合化など）から、中分類ごとの個別施設の取り扱いについて検討してきた。主に行政の所管別に各公共施設の方向性を検討してきたが、地域の地図を見てみると、例えば洲本図書館の近くには文化史料館、旧益習館庭園、三熊山公園、洲本城等があり、面でとらえると文化ゾーンと言える。わが街、わがふるさとへの誇りを感じる素晴らしいゾーンだと思う。そのようなシビック・プライドの増進とともに、文化財の保全と活用、観光の促進、コロナ禍でのオフィスの誘致、その結果として交流人口や定住人口の拡大を目指す諸施策として、このようなゾーン（面）の利活用を検討することは極めて有効である。

五色地域で言えば、例えば五色図書館と子育てセンターの移転先である中山間総合活性化センター等を面として融合化することで、他の自治体でも実践例がみられるように、子育て支援ゾーンを構築できる。

これまでの審議では、個別のハコモノ別に点のレベルでその方向性について議論をしてきた。今後、さらに個別施設を結んで面として捉え、将来に向かって地域資源を生かせる各公共施設のあるべき姿を皆さんで具体的に検討することが重要だと感じた。また、PFIや民間企業との施設の供用、指定管理者制度の活用など公民連携による施設の整備・運用についても、議論がさらに進んでいくものと思っている。

#### （5）その他

浜辺副市長： 当委員会において、皆様方に真剣にご議論いただき感謝申し上げます。どうしても行政だけで議論していると、一辺倒になってしまう。今回の場合だと、行革推

進室が担当しているため、情報交流センターでもあったが、行革ということでやっ  
てしまうと、施設を整理したり、統廃合したり、経費を削減したり、そちらの意味  
合いが強くなってしまう。本来の行革は、それらの結果、どういう行政運営ができ  
るのかということが問題だと考える。

4回の委員会の中で、行政だと拾いきれない観点をご提示いただいた。経費削  
減以外に、収入・集客・交流人口を増やす観点など。施設にしても統廃合だけでは  
なく、必要なものはより充実させるようなことがあっても良いのではないかと  
いうご意見など。三熊山公園や文化史料館は、市民にとって誇りに感じている施設  
だと分かった。

行政だけだと一辺倒になりがちな計画作りが、皆様からご意見をいただいたこ  
とで、多色刷りになり、濃淡が付いた。メリハリのある計画としてまとめ上げるこ  
とができるのではないかと期待している。これからも大変な協議をお願いする訳  
だが、本日までご協議いただいたこと、この場をお借りしてお礼申し上げる。

事務局： 次回、第5回の委員会については、10月以降の開催を予定している。次回の委  
員会では、これまでご議論いただいた内容を踏まえて、参考資料3「洲本市公共施  
設等個別施設計画」案の作成を進めていくので、ご議論をお願いしたい。

(6) 閉会

委員長挨拶

以上